

令和3年度 指定管理者事業報告概要及び評価

報告期間:令和3年4月1日～令和4年3月31日

施設名	大和スポーツセンター、草柳庭球場、桜森スポーツ広場、下福田野球場、 下福田スポーツ広場
指定管理者	公益財団法人大和市スポーツ・よか・みどり財団
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日

1. 事業報告概要

【業務実施状況】

●施設の管理運営に関する主な業務実施状況

(1) 窓口業務

- ①施設保険の受付：1件
- ②苦情、要望等への対応：苦情・要望52件

(2) スケジュール管理業務

- ①スケジュール会議の開催（※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため事前調整実施）
屋外施設：事前調整のみで完了。 屋内施設：事前調整のみで完了。
- ②施設予約の抽選：4/1(木) 5/1(土) 6/1(火) 7/1(木) 8/1(日) 9/1(水)
10/1(金) 11/1(月) 12/1(水) 1/1(土) 2/1(火) 3/1(火)

(3) 経理業務

- ①利用料金の収入・還付実績の作成
- ②収支決算書の作成

(4) 報告、統計業務

- ①建物健康診断報告書：5/1(土)
- ②消防設備報告書：2/17(木)提出
- ③月報：前月分の状況を毎月15日までに提出

(5) 情報提供業務

- ①ホームページの管理運営：財団情報サイト「やまとナビ」日々更新
- ②情報誌の作成：財団情報誌「とりころーる大和」隔月発行
- ③新聞、雑誌等の提供：新型コロナウイルス感染症拡大防止のため提供せず。

(6) その他の業務（日常業務）

- ①大和スポーツセンター清掃の日：新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
- ②大和スポーツセンター消防訓練：5/26(水) 11/17(水)
- ③ドクターヘリの対応：なし
- ④救急車の要請：13件
- ⑤盗難、事故等の対応：器物破損1件（現場対応、警察への通報、事後対応）
- ⑥補修業務：18件（施設、器具等の修理など）

(7) 委託業務実施状況

施設名	業務内容	回数等
大和スポーツセンター 体育会館	日常清掃業務	年間
	設備管理業務	年間
	警備業務	年間
	床面定期清掃業務	月 1 回
	窓ガラス清掃業務	年 3 回
	衛生害虫駆除	年 2 回
	貯水槽清掃業務	年 1 回
	給水ポンプ点検	年 1 回
	水質検査 (10 項目)	年 1 回
	水質検査 (15 項目)	年 1 回
	冷温水発生器保守点検	年 4 回
	AHU	年 4 回
	F C U	年 4 回
	フィルター除塵装置清掃	年 4 回
	送排風機点検	年 4 回
	空調用ポンプ点検	年 4 回
	圧力容器点検	年 1 回
	給湯設備保守点検	年 1 回
	消防設備保守点検 (体育会館・競技場)	年 2 回
	競技表示システム保守点検業務	年 1 回
	体育器具保守点検業務 (トレーニング機器)	月 1 回
	体育器具保守点検業務 (体育器具)	年 1 回
	夜間警備業務 (体育会館・みなみ風)	年間
	自動ドア保守点検業務	年 3 回
	トイレ消臭設備等保守点検業務	年 6 回
	放送設備保守点検業務	年 2 回
	移動観覧席保守点検業務	年 1 回
	エレベータ保守点検業務	月 1 回
	トレーニング室カーペット清掃業務	年 1 回
	空調自動制御設備保守点検業務	年 1 回
資源分別回収運搬処分業務	月 1 回	
みなみ風冷蔵機器保守点検業務	年 3 回	

大和スポーツセンター 競技場	管理業務	年間
	夜間管理業務	年間
	夜間警備業務	年間
	芝生維持管理業務	年間
	機器保守点検	年1回
	樹木剪定業務	年2回
大和スポーツセンター プール	管理業務	夏季(※)
	受水槽、プール及びピット清掃業務	年1回(※)
	濾過装置保守点検業務	年数回(※)
草柳庭球場	管理業務	年間
	夜間管理業務	年間
桜森スポーツ広場	グラウンド整備業務	年1回
下福田野球場	トイレ清掃業務	随時
	グラウンド整備業務	年1回
	浄化槽清掃、保守点検	年6回
下福田スポーツ広場	芝生維持管理業務	年間
	浄化槽清掃、保守点検	年6回
	グラウンド整備業務	年1回

(※) 新型コロナウイルス感染症拡大防止によりプールの営業を中止したため、関連する委託業務は実施せず。

●施設利用状況

年間利用者数（令和3年度）

施設名	利用者数
スポーツセンター体育会館	222,196人 (142,604人)
スポーツセンター競技場	85,725人
スポーツセンタープール	0人
草柳庭球場	47,939人
下福田野球場	11,013人
桜森スポーツ広場	12,835人
下福田スポーツ広場	17,495人
合計	397,203人

※スポーツセンター体育会館の利用者数には、第1体育室をワクチン接種会場で使用した際の接種者数を含む。()内は接種者数を除いた数。

【業務実施状況に関する補足説明】

- ・新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、政府によるまん延防止等重点措置の適用に伴う2度の本市措置区域指定及び緊急事態宣言の発令に対し、市と協議のうえ、4月28日（水）から6月20日（日）、7月22日（木）から10月3日（日）の間は、各スポーツ施設の夜間利用を中止（20時を含む利用枠の利用中止）して、感染拡大防止策を講じました。
- ・また、スポーツセンターがワクチン集団接種会場となったことから、6月16日（水）から11月28日（日）、2月1日（火）から3月31日（木）の間、第1体育室の施設利用及びワクチン接種実施日（土日曜日）のトレーニング室、会議室、競技場の施設利用を中止しました。
- ・上記の状況など新型コロナウイルス感染症の影響から、年間を通じて事業数の大幅な減少はありましたが、施設運営にあたっては、消毒の徹底や感染拡大防止対策についての入念な注意喚起放送など、利用者の方々への安心・安全に取り組むとともに、コロナ禍におけるスポーツを「する」機会の提供に努めました。
- ・公式 Twitter の更新頻度を大幅に増加することで、新型コロナウイルス感染症の影響による施設の利用状況の変更、教室への申込方法等の各種お知らせ、大和市シルフィードに関する情報提供などを積極的に行い、コロナ禍における地域と利用者との「つながり」を推進しました。
- ・市内の小学校全児童に向けて「スポーツやまと」配布し、総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団、市主催事業など、各団体の情報提供等により「ささえる」取り組みを行いました。
- ・日頃から丁寧・慎重な施設の点検を心掛け、豪雨や暴風による雨漏りや折れ枝などの発生に対しても、長年の経験に基づいた事前対応や巡回・点検等を実施し、被害を最小限に抑えるとともに迅速な対応を図るなど、快適で安全な利用環境の提供に努めました。

2. 収支決算概要

(単位：円)

収 入		支 出	
指定管理料 (市が指定管理者に支払った金額)	210,000,000	人件費 (指定管理者が雇用した職員の給料、諸手当、福利厚生等の金額)	58,447,978
利用料 (条例に基づき、利用者が指定管理者に支払った利用料金)	43,572,540	施設管理費 (施設の清掃や保守点検、修繕等に支出した金額)	200,765,734
その他 (出店料、器具等使用料、教室・講習会等参加料、ワクチン接種会場設営・撤去委託料 ほか)	10,662,590	事業費 (教室や講習会等の事業に支出した金額)	3,959,843
収入計 (①)	264,235,130	支出計 (②)	263,173,555

収支決算 (①－②)	1,061,575
------------	-----------

【収支決算に関する補足説明】

- ・利用料は、令和2年度決算額 37,632,100 円に対し、令和3年度決算額は 43,572,540 円で、5,940,440 円の増収となりました。
増収の主な理由は、新型コロナウイルス感染症の影響による施設の休館期間等が令和2年度に比べて減少したものです。
- ・その他収入は、令和2年度決算額 3,732,108 円に対し、令和3年度決算額は 10,662,590 円で、6,930,482 円の増収となりました。
増収の主な理由は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止した教室数が減少したことに伴う教室参加料の増収、及びワクチン接種会場設営（撤去）委託料により増収したものです。
- ・施設管理費は、令和2年度決算額 171,417,595 円に対し、令和3年度決算額は 200,765,734 円で、29,348,139 円の増額となりました。
増額の主な理由は、新型コロナウイルス感染症の影響により施設の休館期間等が令和2年度に比べて減少したことに伴い、光熱水費、租税公課などが増額となったこと、及び清掃・設備・警備委託費が上昇したことによるものです。
- ・事業費については、令和2年度決算額 2,168,276 円に対し、令和3年度決算額は 3,959,843 円で、1,791,567 円の増額となりました。
増額の主な理由は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止した教室数が減少したことに伴い増加したものです。

3. 管理運営に対する評価等

指定管理者の管理運営に対する市の評価は、次のとおりです。

評価にあたっては、令和4年8月5日（金）に大和市スポーツ推進審議会からの意見聴取を行います。

評価の視点1：施設を利用する者に対し、平等な利用の確保及びサービス向上が図られたか
(平等な利用の確保) <ul style="list-style-type: none">・施設の利用許可事務については、書類及び実地調査の結果、条例等に則り適切に行われていることが確認できました。・受付体制としては1人が受付に常駐し、混雑時には全身体制で、予約・利用許可等の受付処理にスピード感を持って適切に対応していることが確認できました。・平成28年7月の利用料金改定により、市外の方の個人利用は倍額となりましたが、利用者カードで判別できるようにするなど適切に対処されていることが確認できました。 (サービス向上) <ul style="list-style-type: none">・施設の管理運営に関する苦情や要望については受付表を作成し、内容や対応結果を明確にしています。対応と同時に内容の十分な検証により、利用者サービスのさらなる向上につなげることを期待します。・各種自主事業について、新型コロナウイルス感染症の影響が引き続く中、一部の中止はありましたが定員を設けるなど状況にあった感染対策を講じ、コロナ禍における安全な事業開催に努め、幅広い世代の方々にスポーツする機会を最大限提供したことは評価できます。・新型コロナウイルス感染症拡大防止により、市から示した統一的な対応方法について、人数制限の解除や各種方法の変更などに対し、迅速、適切に対応した点は評価できます。・間接的なサービス向上策として、指定管理者（財団）としての特色を活かし、花壇など敷地内に四季折々の花を植えるなど、例年緑化運動に積極的に取り組み、そのことが利用者満足度の向上に繋がっているものと評価します。・スポーツ情報誌「スポーツやまと」を市内公立小学校全校児童に配布し、市内のスポーツ情報を広く周知したことは評価できます。・利用者からの要望等があったものの対応を主とすることなく、指定管理者として、常に利用者の満足度を意識し、積極的にサービス向上に努めることを期待します。
評価の視点2：施設の効用が最大限に発揮された事業運営が行われたか
(事業、イベント、施設PR) <ul style="list-style-type: none">・新型コロナウイルス感染症の影響で、無観客開催となった日本女子ソフトボールリーグ1部、関東大学ラグビー公式戦（立教大 vs 青学大）や、中止となってしまった卓球のトップリーグ「Tリーグ」、バレーボールのトップリーグ「Vリーグ」の誘致は、市スポーツ推進計画の「みる」スポーツの観点から、有効な企画であると評価できます。・新型コロナウイルス感染症の影響で、予定されていた事業や各種大会等が中止となる状況が多く見られたが、その際において、速やかに個人・団体利用として開放するなど、利用者ニーズに対応すべく利用機会の最大限提供に努めたことは評価できます。・新型コロナウイルスの影響により開催には至らなかったが、スポーツ教室参加への敷居を下げることで気軽に運動できる機会の提供を目的とした「単発教室」の開催は、今後、新たな利用者獲得につながることを期待します。・また、当分の間はコロナ禍を意識した事業の企画、実施など、生活環境の変化に合わせた取り組みを期待します。

評価の視点3：施設の適切な維持及び管理が図られたか

(通常の維持管理)

- ・施設の清掃や保守点検等の通常の維持管理は、書類及び実地調査の結果、仕様書等に沿って適切に行われていることが確認できました。
- ・新型コロナウイルスワクチンの大規模接種会場となったことに際しては、異例ではあったが会場の設営や維持業務について、円滑・適正な実施に大きく協力しました。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を含み、施設利用者のための安心・安全を高めるため、消毒作業の徹底や施設内の丁寧な点検を実施したことは評価できます。
- ・スポーツセンター競技場では、芝生の適正な管理に努め、「なでしこリーグ1部」公式戦、大学ラグビー公式戦や各種イベントなどが最適な環境で開催できたことは評価できます。
- ・大和スポーツセンター体育会館は竣工後35年が経過し、設備機器の老朽化に伴う不具合箇所の増大に対し、施設利用に影響がないよう適切に補修を実施し、維持管理を図ったことは評価できます。
- ・老朽化が進む施設の修繕、設備機器の更新については、施設管理者として利用者の安全を第一に考慮し、市への的確な改善提案を行うとともに、日々の点検を強化するなど、なお一層の利用者の安全確保を心掛けてください。

評価の視点4：施設の管理を安定して行う人員、資産その他経営の規模及び能力を有しているか

(管理者としての資質)

- ・事業計画書のとおり適正に人員が配置されており、関係法令に基づく管理体制を遵守し、施設の管理を安定して行う人員・能力等を有していると評価できます。
- ・施設管理の経験豊富な職員や、体育施設管理士、スポーツプログラマーなどスポーツに関する有資格者、設備管理の有資格者、芝生管理の技術者などを適切に配置していました。
- ・セルフモニタリングを行い、PDCAサイクルの検証、財団全体での情報共有化、効果的な業務改善活動を行うなど、施設を安定して適切に管理できる組織づくりに積極的に取り組んでいます。
- ・施設利用アンケートを年2回実施し、アンケート結果については館内掲示、ホームページ上に公表し、要望に対する対応等を掲載しており、利用者に対し開かれた運営が行われていると評価できます。
- ・施設の管理運営を安定的に行ううえで、十分な財務状況と判断します。